

漆黒と歓喜のはざまに彷徨う
あるピアニストの物語



角野隼斗ドキュメンタリーフィルム

不確かな軌跡

HAYATO SUMINO
Documentary Film Uncertain Trail

監督 望月馨 制作 ネットゲン 配給 株式会社ローソン・ユナイテッドシネマ

2025

2.28

fri

ROAD SHOW

映倫

24308-A ©角野隼斗ドキュメンタリーフィルム製作委員会



不確かな軌跡

HAYATO SUMINO
Documentary Film Uncertain Trail

クラシック音楽の垣根を超えた唯一無二のピアニスト角野隼斗、初のドキュメンタリーフィルム

2024年7月14日、日本武道館。13000人の観客が見守る中、その圧倒的なパフォーマンスは、観る者すべてを魅了した。そして、一人のピアニストが新たな世界への出発を宣言する。幼少期から数字に魅了され、母のピアノ教室で鍵盤に触れて育った彼は、数々のコンクールで輝かしい成績を取めた。その後、クラシック音楽以外にも興味を持ち、東京大学に進学。YouTubeに音ゲーの動画を公開し、後に「Cateen」としてピアノ演奏動画も注目を集めるようになった。そして大学院時代、「最後の思い出」として出場したビティナピアノコンペティション特級でグランプリを受賞。ここから彼の人生は大きく変わり始めた。従来のピアニストとは異なる道を歩み、ショパンコンクールに挑戦するも、ファイナリストには残らなかった。しかし、その後も全国ツアーのチケットは完売し、様々なメディアやステージで観客を魅了した。角野はなぜここまで人気を得ることが出来るのか？ パフォーマンス、ビジュアル、学歴、YouTube、運？それだけではない、何か特別なものが彼にはある。クラシック音楽、ピアノ、そして音楽そのものに対する角野の挑戦を描くドキュメンタリー。

時代に選ばれたピアニストが歩む茨の道、その先に待つ未来とは。



自分の初のドキュメンタリー映画ということで、嬉しいやら恥ずかしいやらソワソワしています。ドキュメンタリーというのは確固たる目標に向かって突き進むようなタイプの人生の方がきっと映えるんだろうと思いますが、自分の人生はそんな一直線ではありませんでした。過去を振り返ってみれば、環境に導かれながらその時々で自分の進むべき道を模索してきたように思います。その軌跡はいつも、不確かなものでした。それでも自分の中には確固たる想いと美学はあって、それを形にするために日々努力してきました。そしてこれからも。こんな僕の物語が面白いのかどうかは分かりませんが、何かみなさんの生きるヒントに少しでもなれたら、それ以上に嬉しいことはありません。

角野隼斗

角野隼斗 Hayato Sumino

1995年生まれ、千葉出身。2018年、東京大学大学院在学中にビティナピアノコンペティション特級グランプリ受賞。2021年、ショパン国際ピアノコンクールセミファイナリスト。これまでにシカゴ交響楽団、ポーランド国立放送交響楽団、ボストン・ポップス・オーケストラ、ハンブルク交響楽団、ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管弦楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、他多数のオーケストラと共演。2023年よりニューヨークに移住。2024年、自身最大規模の全国23公演の日本ツアーを開催し、全公演完売。自身の誕生日である7月14日に日本武道館公演を開催し、動員数は日本武道館におけるピアニストの単独公演として史上最高となる13,000人を記録。10月にはワールドワイド・デビューアルバム「Human Universe」をソニー・クラシカルよりリリース。ロイヤル・アルバート・ホール（ロンドン）、グシュタード・メニューイン音楽祭（スイス）、ラインガウ音楽祭（ドイツ）へのデビューを果たしたほか、ラヴィニア音楽祭にてマリン・オルソップ氏指揮・シカゴ交響楽団と共演し、大きな話題となった。オーケストラ共演の他、バリ、ウイーン、シンガポール、台北、ソウル、上海などにリサイタルを開催し、国際的な知名度を急速に高めている。さらにFUJI ROCK FESTIVALや京都音楽博覧会への出演など、活躍の場はクラシックフィールドに留まらない。6人組シティソウルバンド「Penthouse」のメンバーとしても活動中。2018年9月より半年間、フランス音楽音楽研究所(IRCAM)にて音楽情報処理の研究に従事。これまでにジャン＝マルク・ルイサダ、金子勝子、吉田友昭の各氏に師事。MBS「情熱大陸」「一人の第九」、NHK「紅白歌合戦」「あさイチ」「街角ピアノ」、テレビ朝日「徹子の部屋」「題名のない音楽会」など、数多くのメディアに出演し、J-WAVE「TOKYO TATEMONO MUSIC OF THE SPHERES」ではナビゲーターを担当。作曲家としてもNHK「サタデーウオッチ9」のテーマ曲をはじめ、ドラマやCMへの楽曲提供も積極的に行っている。CASIO電子楽器アンバサダー、スタインウェイアーティスト。クラシックで培った技術とアレンジ、即興技術を融合した独自のスタイルが話題を集め、「Cateen(かていん)」名義で活動するYouTubeチャンネルは登録者数140万人超、総再生回数は2億回を突破。2020年、1stフルアルバム「HAYATOSM」をリリース。2022年には、マリン・オルソップ指揮、ポーランド国立放送交響楽団とのライブ録音による「ショパン：ピアノ協奏曲第1番」をリリースし、異例のヒットを記録。クラシックのピアニストとして確固たる位置を築く一方、ジャンルの垣根を超えた音楽の探究心で知られる、唯一無二のピアニストとして注目を集めている。

(2024年11月現在)